

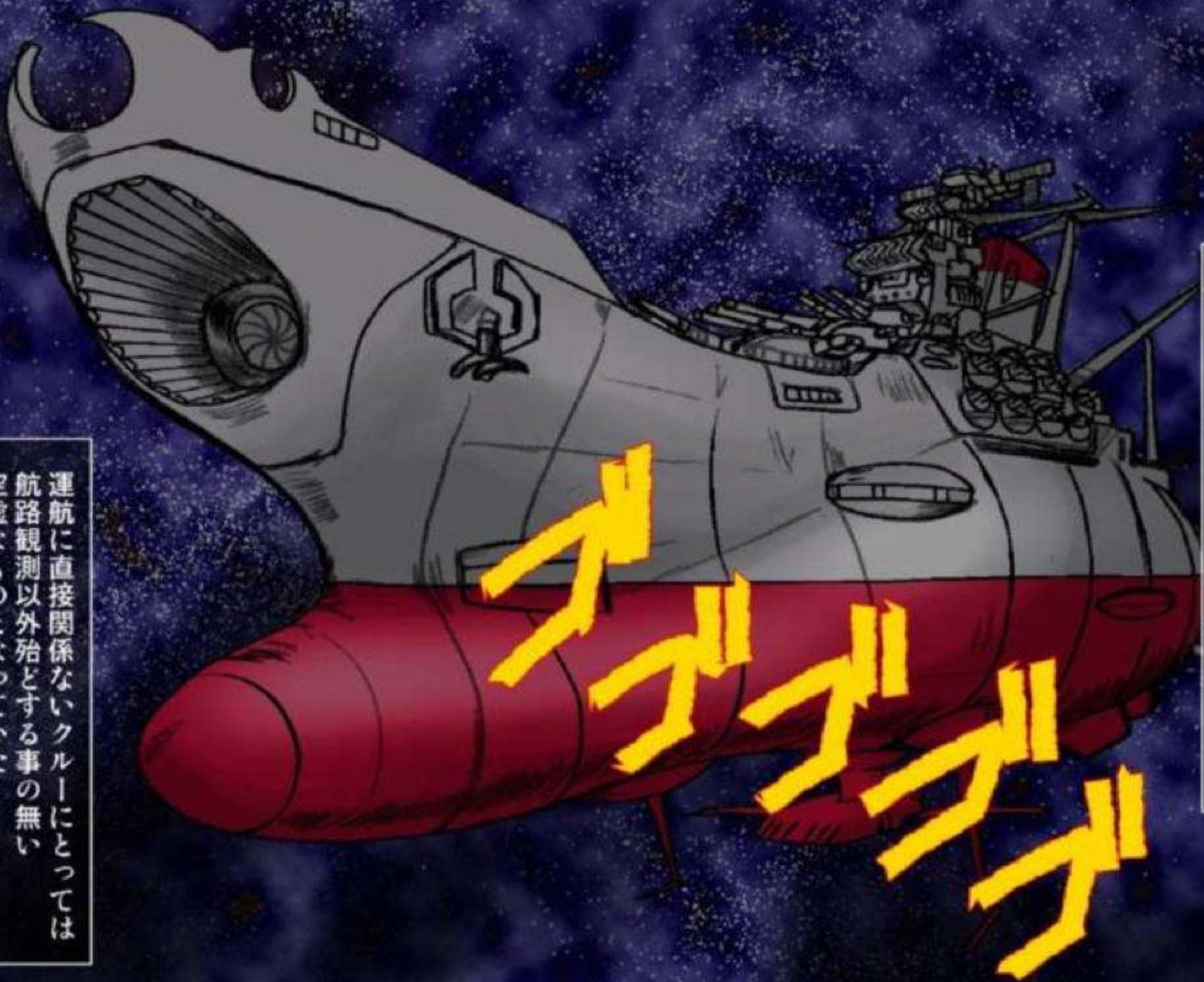


21世紀初めの都市伝説的アプリを再現して
艦内一の才媛に使用してみた。

イスカンドルからの出港後15日経過

行きのガミラスとの交戦に怯えながらの航海と違い地球への帰路はただひたすら時間との戦いとなり…

運航に直接関係ないクルーにとっては航路観測以外殆どする事の無い空虚なものとなっていた…



あゝあゝ
こう暇だと余分な事ばかり
考えてしまうんだよな...

例えば今までそんなに意識して
いなかった女子クルーの制服...
何であんなに身体のラインが
ハッキリ出てるんだ？

あんなの見せつけられちゃ
ムラムラするなって方が無茶な話だよな...

中には既にくっ付いてしまってるクルーもいるって
噂だけど俺には残念ながらそんな相手出来るわけも
ないしな...

そうだ、以前21世紀の都市伝説で
女を思い通りに操る催眠アプリ
なんてのがあったけど今なら
本当に出来るんじゃないのか？

要は前頭葉周辺を電磁波や
光刺激でコントロールしてやれば
理性なんて簡単に…

よしどうせ暇だし作ってみるか？

さて催眠アプリは出来たし
問題は誰で実験してみるかだが…

ン？今その角を曲がったのは新見一尉だよな…
お堅いイメージがある女に限って実は欲求不満の
ド淫乱ってなんて事がよくあるって言うし先ずは彼女で…



俺は先ず平静を装い
彼女に近づく事にした

新見一尉…

あら…
どうしたの？



実は航路上の空間の揺らぎの観測値について
気になる点がありました……」

適当な事を言って
俺は新見一尉に近付いた

そうなの？
今見れるのならその数値見せてくれない？



このタブレットに表示できませんから
確認して下さい

そうやって俺は催眠アプリを起動した
タブレットを新見一尉に手渡した

えん？

〇〇君どの数値の事？別におかしな処は…
それにしてもこのタブレット故障
してるんじゃないの？

画面を見つめる新見一尉が眉をしかめる

何なのこれ？やたらと目がチカチカして…
頭の芯がボヤケて考えがまとまらなく…

…

ん…

画面の輝度変化が何か…おかしくて…



新見一尉…どうされました？

タブレットを見つめていた新見一尉の様子がおかしくなったのを見計らって俺は声をかけた

な…何でも…ないのよ…
ちよっと立ち眩みがあっただけ…

ビクッ

それは大変ですね！
きつと航海の無理が祟ってるんですよ！
一尉も少しは休養を取らないと

え？

ちツちヨツト…
そこまで大げさにしなくても…

慌てる一尉を無視して
俺は一尉を個室に連れ込んだ

ほら椅子に座って身体を休めて下さい

手数を掛けちゃってごめんなさい
こんな事は初めてよ

本当にどうしたのかしら
頭の芯ががポーンとして
身体も凄く熱いなんて…

椅子に腰掛けた一尉は
火照った顔を俺に向けて微笑んだ

催眠アプリはちゃんと効果があると
確信した俺は次の段階に進む事にした

そんなに身体が熱いのなら
冷やした方がいいですね服を脱いだ方が
体が楽になりますよ？

え？……そんな……
貴方の前で服を脱ぐなんて
恥ずかしいわ……



普通なら怒られて当然の言葉にも困惑した表情を見せる一尉……
この女の理性はまだかろうじてだが働いているみたいだが
催眠アプリは機能しているみたいだな

一尉こちらのタブレットを見てくださいますよ
何故服を脱いだ方がいいのか
ちゃんとわかりますよ

そう言うと催眠アプリをもう一度
起動させたタブレットを一尉に見せた



A blue-haired woman with glasses is shown in a blue uniform. She is pulling down the zipper of her jacket, which is partially unzipped. The uniform has a patch on the left sleeve that says "YAMATO UNIFORM" and an anchor. There is a small orange and red logo on the chest. The background is a dark, industrial-looking interior.

そうね…そうする方がいいみたいね


そう言うで一尉はファスナーを下ろしはじめた

そんなにジロジロ見ないで…
私…恥ずかしいわ

なら常識そのものを書き換えを…

何言ってるんですか一尉ファスナーを
開いた下に下着を着ている方が
恥ずかしい事だと思いませんか？

ピタ



えっ？ええそうね…？
やだ私下着をつけてるなんて…
なんでこんな恥ずかしい
格好してるんでしよう

一時的とは言え新見一尉の貞操常識を
書き換えられる事を確認した俺はニヤリと笑った

これでいい？

新見一尉は顔を赤くしながら
その乳房を晒した

いいですねえ…
そんなにかわいい一尉を見ちやうと思わず…





そんなッ!
急にキスしてくるなんてッ!!

キスッ

小見!?

そう言うと俺は新見一尉の唇に吸い付いた

でも…私…嫌じゃない？

あはは

ひんが…♡

あはは

驚く新見一尉に構わず唇に舌を差し込む
舌どうしを絡めあわせる



凄いやコレ...
舌を絡めてるだけなのに
なんでこんなに気持ちいいの？
口の中を舐めまわされてるだけで
私おかしくなっちゃう〜♡

ん...ん...ん...

♡

レロ♡

はああ〜♡

ピキ

きっと今の新見一尉の中では
身も心も任せられる愛する彼氏だと
信じ込んでいるんだろう。

そんな...

そ...そうね...?

〇〇君がそう言うんならわかったわ♡

みみ♡

みみ♡

そうよ〇〇君は私の事を心配してくれているんだから忠告にはちゃんと答えないと

カパ...

あれれ？どうしたの？
薫のココ凄く濡れてるじゃないか？

そんな事無いわ…

本当にイ？



大股開きの薫の前にしゃがみ込んだ俺は
薫の恥毛をなで上げ、指を秘部へ差し込んだ

こういう事して欲し
かったんじゃないの？

はああっ!!!

ビクッ

ビクッ

ビクッ



俺は薫の秘部のヒダを
指で拵げてながら言った

薫の一番はずかしいところが丸見えた。
ほーら、こうやると奥の方まで見えるよ
恥ずかしいねえ…こんなことされるのはじめて？

…はじめてです…
いやア…見ないでエ…

じゃあ…今度は薫が自分で
開いて見せてくれよ？

ええツ？
そんなア…

おはま

いやじゃないよ
ホラアこうやって拡げて見せてよ

ああ…

△ア

△ア

くばあ♡

俺は薰の両手を秘部へと持っていていき
広げてみせる動作を試してみた



そうだ…
そうやって拵けたまままでいてこらん

アハハ

ブル

ムア♡

ムア♡

はああん…
そんなコトしちや…イヤア…

俺は指を秘部へと差し入れ、穴の位置を確かめると
ゆっくりと抜き差しを始めた

ブル

ピクン

ピクン♡

グググ

ヌググ



身をよじって俺の指から逃れようとした薫を
逃がさず深く指をその濡れた秘部に差し込んだ

はあぁ♡
そうよ…ニラして欲しかったのオ
もっといやらしいニといっぱいしてえ♡

ヌチョ

ゲチョ

ゾウ

ゾウ





気持ちいいだろ？
自分でするよりいいんじゃない？
薫は週に何回ぐらいオナニーするのかな？

2...3回...3回です

おちち♡

おちち♡

一番最近したのはいつ？

♡...♡...♡...
♡...♡...♡...
♡...♡...♡...

ビュッ

ヌルヌル

おちち♡

ちやんと最後までイけた？

い、いいえ...

あッ♡

あッ♡

あッ♡

そうか、それで今日はこんなに調子がわるいんだ？
欲求不満の新見一尉はいつも身体のラインが
丸わがりの艦内服で艦内を徘徊してるんだよね？

ジューポッ

ブチゅ

ケリン

ピラッ

ピラッ

そうよ私…欲求不満でいつも
誰かに気持ちよくして貰えないかと
欲情してるのオッっ

はぁぁ♡

おっっ♡

ブルブルッ

プシヤベツ!!



そうかあ…
それじゃあもっとスケベな事をして
薫を悦ばせてあげなくちゃね？

はああん♡
気持ちいいですウ…
もっと…もっとして下さい

ハア♡

ハア♡

ブル

ブル

え？そどこがそんなに気持ちいいの？
俺が今指を入れたり出したりしてるところ？
薫の何ていうところなのかな？

グチユ♡

ヌチヨ

ジユホ♡

オ……オマニコ……
薫のオマニコですウ……♡

あ♡♡

♡♡♡♡♡

ブル

ブルル

ビクッ

そうだ、マンコ丸出して俺の指で
イタズラされて気持ちよくな
っているんだよな？

グチョ

チゅぽ♡

ヌチョ

ホラホラア
ここからスケベな汁がいつばい染み出して
お尻の穴のほうまで垂れてる
俺ににマンコいじられて恥ずかしいのか？

恥ずかしいですウゝ

あッ!?

ええッ?
そんなア...

びりっ

びりっ

グイッ!!

そうか恥ずかしいか...
でも薫はもっとイヤラシイ事して欲しいんだよな?
俺が薫のマンコを舐めてやるぜ

ああっ!!
イヤ・そんな事しちゃ...
駄目エ〜♡

ははは♡

ははは♡

ははは♡

ブルッ

ブルッ

ペろ

ぴちや

エチエチ♡



薫のマン汁…しょっぱくて美味しいぜ
どうだ？薫はマンコ舐められて
気持ちいいのかな？

は…はい…
気持ちいいです…

駄目え…

もう全然考えがまとまってくれない…
このままだとどんなイヤらしい事を
されちゃうんだろ…



秘部への愛撫だけで何度もイカされた薫を床に降ろした俺は
自らのスラックスと下着を脱ぎ、
興奮で硬くなった肉棒を薫の眼前に曝け出した

ズルンッ
!?

イキナリ目の前に現れたソレを凝視した
薫は更に興奮している様だ

頭を両手で押さえ薫の顔を一物へと近づけた。
薫はむせ返るようなその匂いに顔をしかめ、
口をかたく結んで受け入れるのを拒否している様だったが
次第にそのいやらしい匂いの発情したのか
おそろおそろ舌を出した

グイッ

さあ大きな口をあけて
俺のチンポをを口に含んでくれよ

あ…

ア



ホラ早く!!
コレが欲しかったんだろ?

この凄く濃い雄の匂いを嗅がされちゃったら
頭がクラクラ来てコレの事しか考えられなく
なっちゃう



グイッ!!

もったいぶってないで
早く啜えればいいんだよッ!!

ズボッ!!

ニニッ!!

俺の一物を啜えたまま咳き込んだ薫は
上目遣いに俺の顔を見上げた

ゴツ

ジュボッ!!!

んホツ

ブチュ♡

薫はまたゆっくりと俺の一物を口に含むと、
自らの頭を前後に動かして
いやらしい行為に鼻息を荒くして興奮している様だ

俺もすぐに鼻息を荒げ、腰を突き出して薫の口に吸い込まれていく自分の一物の様子を眺めていた

ああ：いいよ薫：
久しぶりに味わう男のチンポの味はどうだ？
どんな味がするのかな？

おいし…です…
とっても…とっても
いやらしい味がします…

ズルズルカッ

フワッ

フワッ

俺がいろいろと言ってますこと
しやぶってるよ...

不ッ♡

不ッ♡

ジュポッ♡

ジュポッ♡

頭から手を離しながら言った言葉に
薫は顔を真っ赤にしながら
俺の一物を無心でしやぶり続けた

そろそろイクぜツ!!
薫の口の中に全部出すから
全部飲んでくれよほら…

ズツ!!

射精るううっ!!

ドクッ

ドクン!!

ズズズ

俺は薫の頭をつかんたまま、腰を押し付け
口の奥深くに大量の精液を放出した

ドロツとしたそれは
たちまち薫の口の中一杯にあふれ
俺が一物を抜き取ると
飲み込みきれなかった精液が
薫の乳房にポタポタと零れ落ちた

あ……

ハァー♡

ドロオ……

ハァー♡

はぁぁぁ

ブハ

ブハ

どう一尉……
俺の精液美味かった？

俺の問いに薫はコクンとうなづいてみせた

そのこのシートの上に
登って貰おうか

どう…ですか？

ギ
ニ
ツ

俺の命令でシートによじ登る姿を眺めていると
あの新見一尉が自分の目の前で今
胸と下半身を曝け出している
という事実が改めて実感され
俺は頭が痛くなる程の激しい興奮を覚えた…

そうそーういい格好だ…
薫の尻の穴まで丸見えだよ

い…いやあ…
そんな恥かしい事…
言わないでユ…

ハア

ブル

ブル

カアア〜



マンコこんなに
ピチャピチャに濡らして…
俺のチンポしゃぶって
興奮してたんだろ？

!?

ピクッ

ピクッ

ひゃんっ!!
ひっひいっ!!

オチコ

ニムッ



んっんん...

ソクソク

...やめないで...挿れて...
ください...お願い...

薫：嫌なのか？
嫌ならやめようか？

一物に濡れた膣口を抉られ
薫の声が甘く上擦る

ヌチヌチ♡

ピク

あなたのチンポを
私のオマンコに挿入れて頂戴！
このままじゃ私
おかしくなっちゃうツ！！



薫は身をくねらせて喘ぎ、そして吐息をつき
上気した顔をあげると躊躇いながらも答えた

あ…はあ…

か…感じて…ます…
弄…られて…だから…

ハァー
…も…と…して…
お願い…欲しいの…

ズチユ
ズグッ

ガウ

ガウ



一物を薰に見せつけるように
体の向きを変えると言った

何が欲しいのか
ハッキリ言って貰わないと
解らないんだけど？

えっ……？

俺にそう尋ねられ、彼女の視線が泳ぐ



ハアア

ハアア

あ.....

ハアア

ハアア

お願いよ...
もう我慢出来ないの...
だから...

ガウ
何をどうして欲しいのかちやんと
言ってくれなきゃ俺もどうすればいいの
か分からないぜ？

ヌチユ♡

ガウ

もう既に限界近いであろう薫をじらし
その反応を楽しんだ俺は更に恥ずかしい言葉を言わせるべく
膣口に握った一物を誘導し押し当てる

んっんん...

ソクソク

...やめないで...挿れて...
ください...お願い...

薫：嫌なのか？
嫌ならやめようか？

一物に濡れた膣口を抉られ
薫の声が甘く上擦る

ヌチヌチ♡

ピク

あなたのチンポを
私のオマンコに挿入れて頂戴！
このままじゃ私
おかしくなっちゃうツ！！



俺は膣口やクリを刺激し続けていたのだが薫が自ら尻を突き出してきた為すでに淫汁でヌルヌルにコーティングされていた一物が、ヌルツと一気に入ってしまった

ビクッ!!

ビクッ

ヌルツ♡
ヌルツ♡

んツ!!
♡
♡
♡



そんなに欲しかったのか？

はあぁッ…
オチンポが入って来たぁ♡

うん…だから…
して…イッパイして…♡

YAMATO
UNIFORM

ブッ

ブッ

ブッ

そんなに気持ちいいの？

はあはあ...

すこ〜く...気持ちいいのオ...

どうして貰いたいのか
ちやんと言ってみてよ？

クネ♡

クネ♡

チンポもつと入れて...
オマシコイッバイしてエ...♡



しょうが無いなあ
そんなにチンポが
欲しかったのか？

薫の身悶えするような声に
俺は余裕を繕いながらも
もう何も考えられずに
ただ腰を思い切り突き入れていた

ズ
ン
ッ

♡
ズンズン♡

ズンズン



薫が激しく喜悦の声をあげ十二分にほぐした筈の
膣壁がきつく俺を締め付ける
散々自分自身で焦らした俺の欲情は更に激しく昂ぶり
腰を打ち付けるように激しく薫の膣肉を掻き回した

オッすニーい♡
ニんなの初めて王
子宮に当たるの年♡



♡♡♡♡♡

ズズズズ

こうして欲しかったんだろ？

ゴチユンッ



グキョ

はッはいイ...そうなのオ
気持ちいい 気持ちいいのオ

ヌキョ♡

衝動のままに突き込み続けていると早くも
じわりと射精感の前兆が込み上げ
俺は、はっ、と自らの欲情に制動をかけた。

ピタッ

えッ!?

先に薰をいかせてみたい思っただけで俺は
一旦突き入れた腰の動きを止めた。



なッ何故動くのを止めちやうのッ？

本当はこうして欲しかったんだよな？
正直に答えないなら止めても
いいんだぜ？

クネ

そんなア...

クネ

耐え切れずに自ら腰クネらせて
喘ぎ乱れる薫の姿が余りにいやらしく
否が応にも劣情をそそる

はア
そう...して欲しかったのオ...
はア

何だよ？
ちやんと言わないと
わからないぜ？

ハア
そんなア...オチンポオ...
あなたのオチンポおしやぶり
させて貰った時からあ...
ハア

俺のチンポを実際に触って
口でしゃぶった時に
マンコでも欲しくなったんだよな？
薫はやっぱり淫乱な女なんだ

イヤァァ
恥ずかしい事
言わないでエ♥

ブルッ
ブルッ
ジュポッ
マキョ♥



ズチュンッ

んおツ♡

あっ!

ブボツ

あっ!

ほオオ♡

あっ!

ズボツ

ズブッ

薫が昂ぶるのに合わせ俺は
縦横に抜き差しを早めた

ズボツ

ズチュン♡

あ♡

へっ!

俺は腰を捻りながら緩急を付け
浅く深く薫の内壁を擦り立てた





ひああっ! あー!
いいっ! ……いいです…っ!
感じ…ますっ! ……!

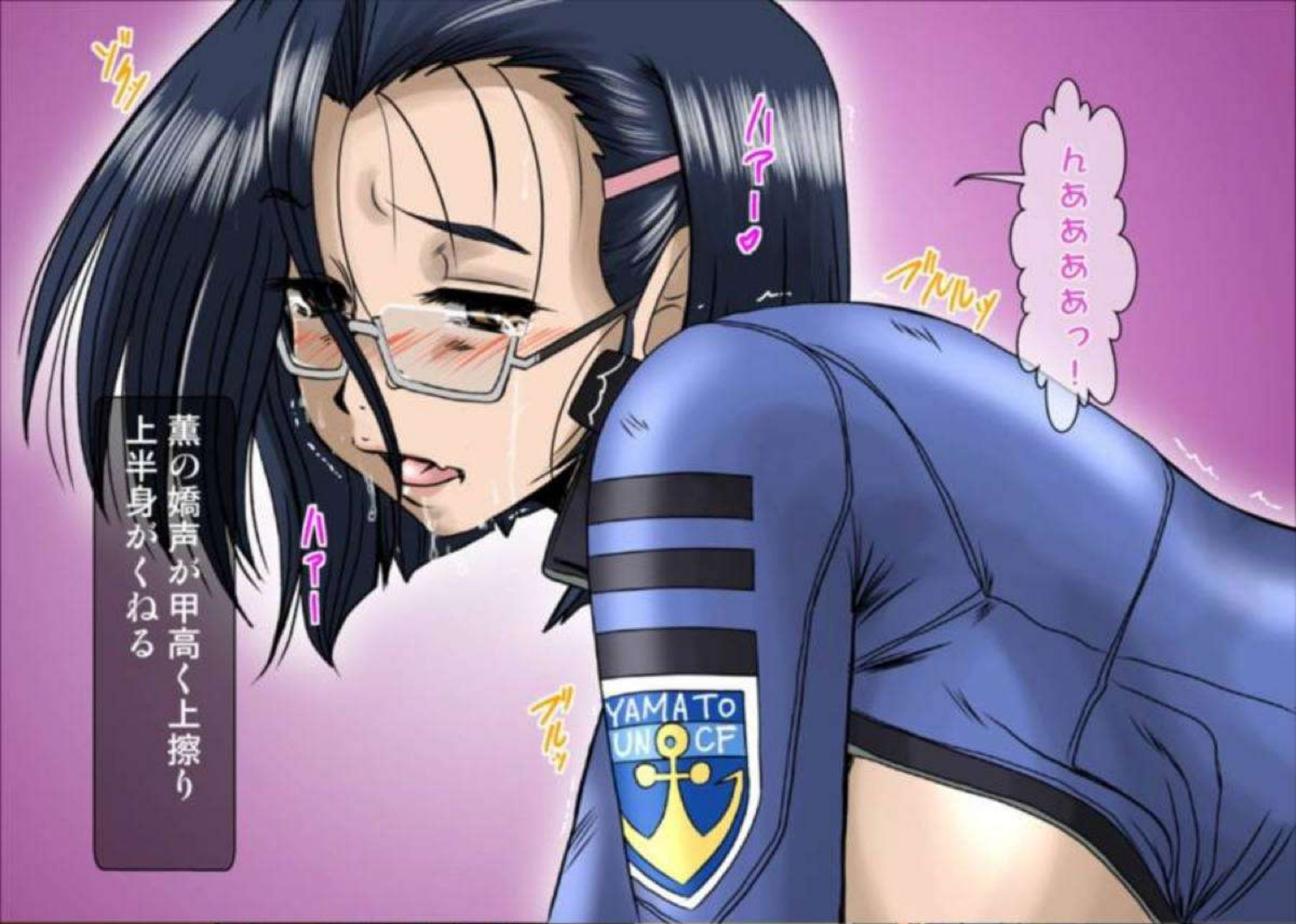
もうダメです
逝きそうです
逝くのが恥ずかしい

薫が刺激に喘ぎ、嬌声をあげ腰の動きは強制的に止まると、俺に無抵抗な肢体を曝け出した



んあああっ!

俺は一物に擦る刺激を
与えないように注意しながら
薫の中を小刻みな律動で捏ね回す



薫の嬌声が甲高く上擦り
上半身がくねる

何勝手に一人で
逝こうとしてるんだよ？



こっごめんなさい
気持ち良過ぎて私つい…

初めに苛めたのが効いたのか
薫は丁寧語で快感を訴え
俺は強く深く抜き差しを繰り返した

あっ！
あっ！

右ボツ

頭の中が真っ白になる程の興奮と快感に堪えひたすら肉棒を膣肉に打ち込み薫を乱れさせる

あっ

あっ！

あっ

あああっ！

薫の喘ぎが切迫し始め手にびくびくと力が籠り膣壁がうねるように蠢き俺の肉棒を扱き立てる

ズチュッ

グセツ

ズボッ

ズチュッ

逝くならはつきりそう言いな！
いいって叫ぶんだよ！

嫌ア見ないでエ
もう駄目エっ!!
逝きます 逝きます

逝くウー!!
ウウーッ!!

オイオイ薰?勝手に逝っちやダメだろ?
体をこんなに反らしてびくびく痙攣してるぜ
まだ俺のは物足りないから、また動かすぜ?

ビクッ
ビクッ

ビクッ
ビクッ

ズボッ
ズボッ

ズボッ
ズボッ

ア
ア

ア
ア

ア
ア

ア
ア

ア
ア

ア
ア

ア
ア

ウー!!
もうダメエ
おかしくなつちやうウツ!!

ズ
ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ

ズ
ズ



動かすのやめようか？

ズルッ

ズルッ

ズルッ

ズルッ

あッ
お願い...
やめな...
止めないでください...
あッ
あッ
あッ

ズルッ

ズルッ



また逝きそうです
嫌アー!!

アホッ

恥ずかしい 逝きます!

い...くっ!いい...っ!
いいいいっ!

逝きます 逝く
逝く 逝くう!

アホッ

アホッ

アホッ

アホッ

アホッ

アホッ



逝けっ!!

ズ
ク
ク
ッ

ズ
ク
ク
ッ

ズ
ク
ク
ッ

ウウウ!!
逝くウー!!

ズ
ク
ク
ッ

ズ
ク
ク
ッ



ハアア

あ……あ……

ハアア

ズルズル

ビクッ

ハアア

ビクッ

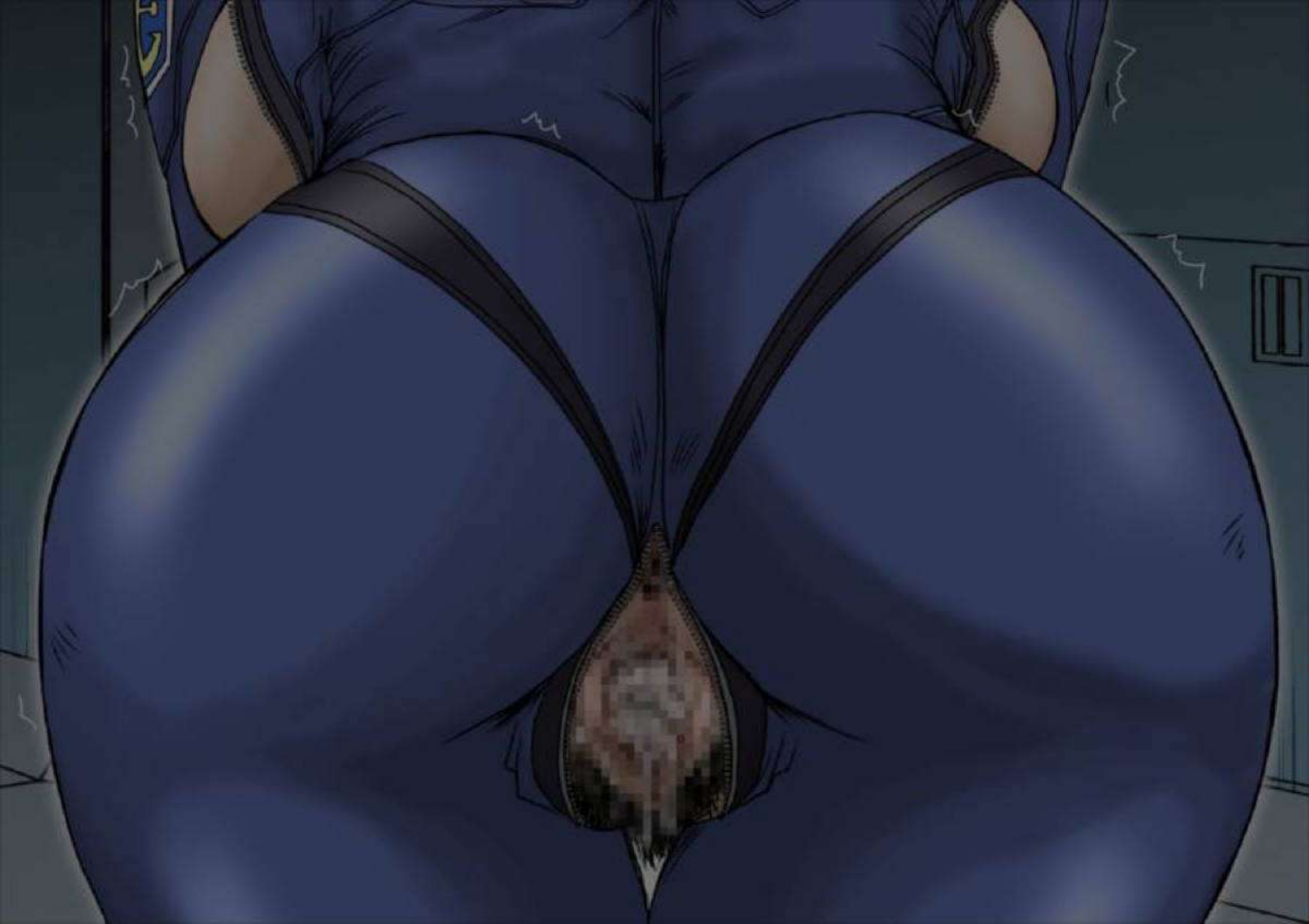
ハアア

新見一尉……
この事はちゃんと忘れて下さい

腔口から精液を吹き出し痙攣している
薫にそう言い残すと俺は彼女の
個室から退出した

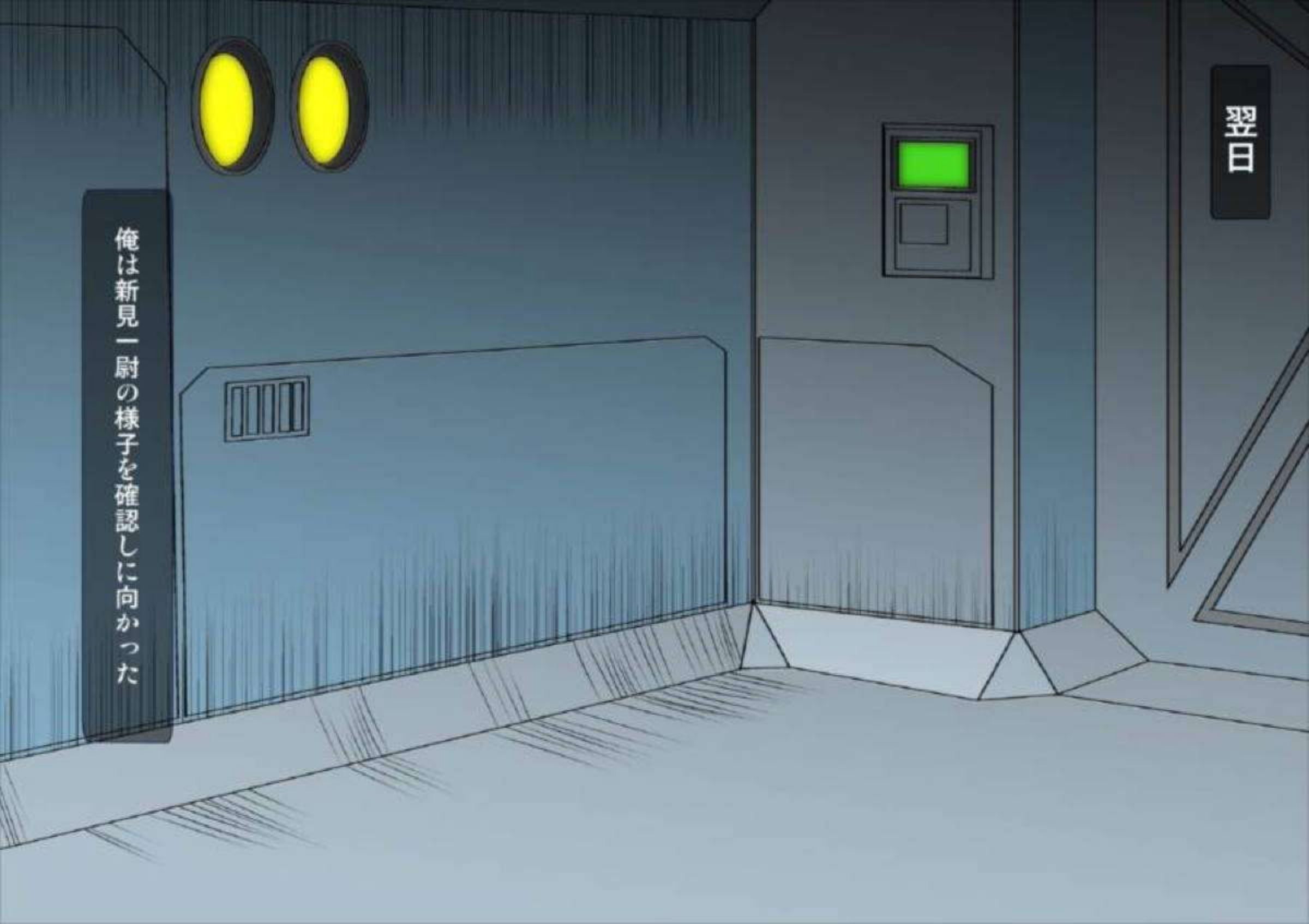
ズルズル

ハル



翌日

俺は新見一尉の様子を確認しに向かった



新見一尉

あら○○君…
昨日何か話をしていた様な気が
したんだけど、何故か昨日の事が
よく思い出せないのよ…
何の話だったかしら？

催眠アプリはちゃんと機能しているみたいだな
ならもっと新見一尉の身体を愉しませて貰いましょうか

その事でしたらこちらのタブレットを
見ていただければわかって
頂けると思いますよ

これを見れば
いいのかしら？

♡

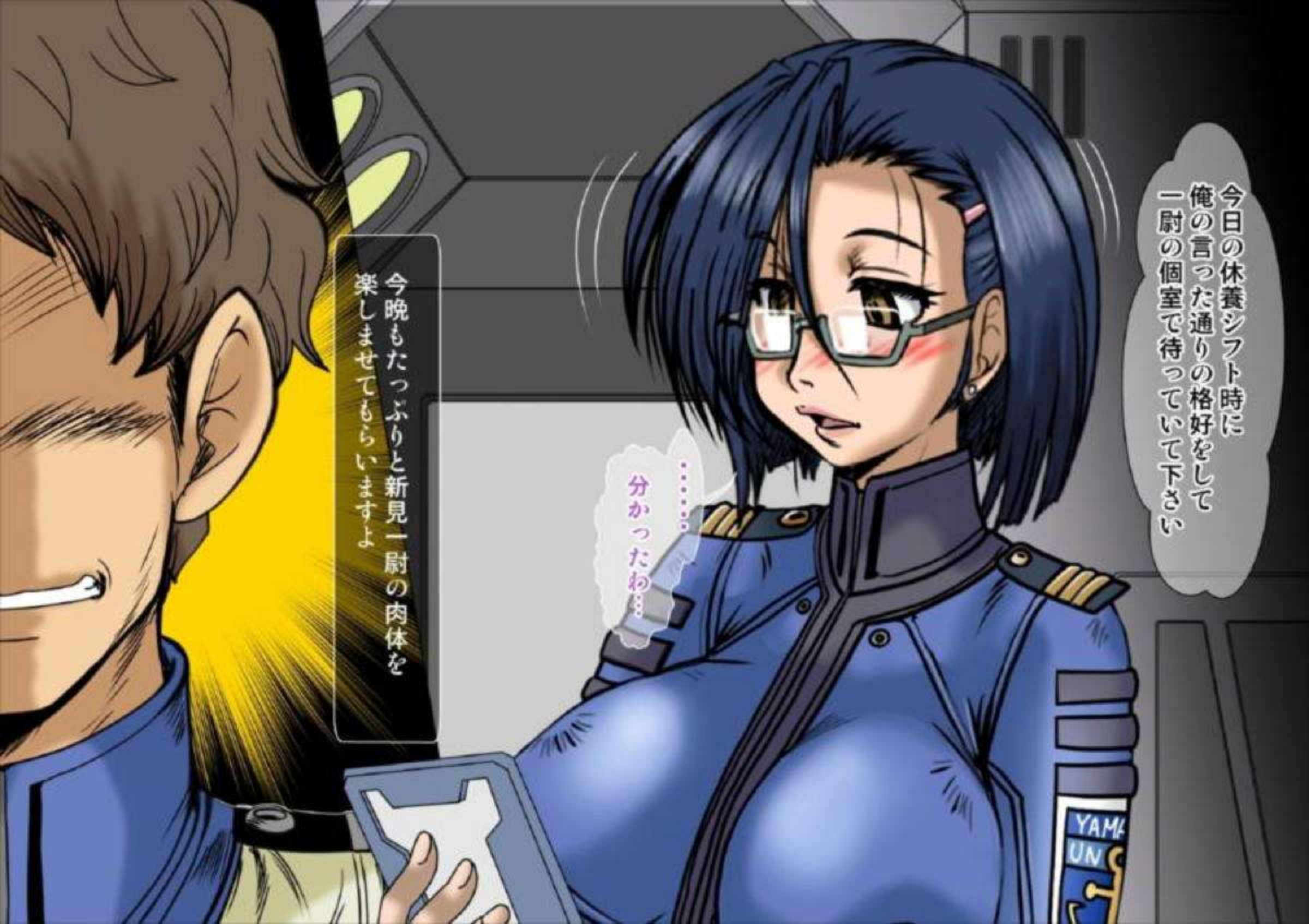
それを見てくださいれば
新しい暗示をアンタに植え付ける事が
出来るからな…



今日の休養シフト時に
俺の言った通りの格好をして
一尉の個室で待っていて下さい

.....
分かったわ...

今晚もたっぷり和新見一尉の肉体を
楽しませてもらいますよ



数時間後…


薫：言った通りの格好を
してくれたんだね？
うれしいよ

本当にこれで艦内を歩くの？
私…恥ずかしいわ…

大丈夫パツと見る分には誰も薫が
裸に直接色を塗ってるだけなんて
気付くはずも無いからさ
羽織ってる白衣も脱いで…

モロ





似合ってるんだから
隠してるその手を後ろに回して
ちゃんと俺に見せてくれよ

オズ

オズ

こ...これで...
いいのかしら？

クツクツクツ

よしよし
それじゃあ艦内散歩に
出かけようか





えッ!!
そ…そんな…

何当り前の事に
驚いているんだ?
そのために全裸に絵具を塗ったに
決まってるじゃないか

ニヤリ

そ…そうよね？
私っただら何言ってるんでしょ…

アプリの効果で俺の言う事を無条件で
信じ込んでいる薰はいとも簡単に
俺との全裸艦内散歩に出かけた



本当に？

本当にこんなところで
スルって言うの？

ハハ

ハハ

にや

にや

ハハ

ハハ

にや

アంతだつて全裸に
ボディペイントなんて
スケベな格好で艦内散歩して…





もうやりたくって
堪らなくなってるんだろ？

ビクッ

グイッ!!

あ♡

デボン

デボン

そ...そんな
事オ...な...

はなはな♡♡

モミ

モミ

シロ

シロ

でもでも…
こんな処を誰かに見られてもしたら…
私…恥ずかしくて死んじゃうわ

ハア

あ♡♡

キヨロ

キヨロ

ハア

シヨ

シヨ

びちゃ

べちゃ

口ではそんな事言っつてても
薫の淫乱マンコはヌルヌルの
スケベ汁を溢れさせて来てるぜ？



そんな事ある訳…んっ…
ある訳…ないじゃない…
おっっっっっ♡

!!

!!

ギョッ

ゲゲゲ

クックククツツ
そうかい？

アプリの影響なのか薫が本来持つ淫乱性の為か
彼女の言葉とは裏腹に膣壁からは濃い牝臭を
放つ粘液が後から後から溢れ出る



あぢあぢ〜♡

ダメダメエ

おかしくなっちゃう〜♡

+300♡

+300♡

+300♡

ブル

ブル

ドン

オッオッ!!

何とでも言っていればいいさ

ビョウッ

まったく…

艦内の公共スペースでこんな格好で歩かせるなんて…

私本当に恥ずかしくて死にそうだったんだからね？

でも本気で興奮してたじゃないか？

そんな事ないわ

ニユヂイ

ムチッ♡

薫はその豊満な乳房で俺の肉棒をこねくり回しながら悪戯っぽく微笑む

ハァ

ハァ

ハァ



貴方のオチンホ
とっても素敵よ♡

オチンホに挟み込んで
こんなにはみ出すなんて
信じられないわ♡

んんっ♡

へっ

ん...

ニユチ

ニユチ



薫は口を開くと俺の肉棒を
いやらしい音をたててしゃぶり始めた

ンポッ♡

じゅわん♡

じりほッ

んっんん♡

んはあゝ

もっ我慢でござんた♡

ポロ

ポロ

そんなに夢中になってしゃぶってるなんて
本当にチンポ好きの淫乱女だったんだねえ

んっ

んんっ♡

じゅるんんん

ドクドク♡

モジ

モジ

口でチンポ啜えてちや
答えられる訳ないか？

ん不不ウッ

ちやチンポへ

んぼオ...

チンポへ



だってえ大好きなあなたの
オチンポだもの当然じゃない♡

モジ

モジ

ムニ

ムニ

こいつ本当に俺が恋人だと思いついて来てるな？



何だよ薫のマンコ
もうヌルヌルのグチヨ
じゃないか

ぬちよ

ぐちせ

ムチ

アナタのオチンポししゃぶって
たら私も我慢できなく
なっちゃったのぉ♡

ムチ

ムチ

ムチ

ムチ

私のエッチなオマンコに
アナタのどっても硬いデカチンポ
シコリマコトしてほしじの♡

俺が薫の股間に勃起した
肉棒をあてがうと…

ムチ

ぐちゃ

あちよ

ムチ

はな

あッ♡

だめエッ
ゴムを付けて〜♡

はな♡

はな

はな

はな

薫は最後の抵抗を試みる…



そんなもの用意してないよ
昨日だって盛大に
膣中射精したんだし大丈夫だって

そう言う俺は
ぐいつと腰を押し当てた

そッそんな
生は…

ソッソッ

キョッ

キョッ

キョッ

ぬぶぶッ

はあぁッ…
あッあおきい♡

キョッ

ソッ





いい...

はマアア♡

はマア

はマア

はマア

腰山揺らしてはマア♡

はマア

ゆっくりと俺が腰を振り始めると...



アア...ツ!!

ウウミン♡

ずちゅらッ!!

にゅぶッ

本気で感じはじめた薫の両脚を両腕で抱えあげると二人の結合部分が丸見えになりそれさえも被虐心を煽る事になる

ぐきゅん

ずぶん

ぬぼん

ああ

いじゅん♡おニい
いっちゃうン!!

ピクン

フルン

もっとおニい
もっと突いてエッ♡

腰を動かすにつれて、薫の苦しげな喘ぎ声も大きくなっていく



奥のトコニツとしたアロコに当たってるよ♡

ぬぶんツ

ぬぶんツ

ぬぶんツ

ギョブ

ぶちゅツ

もう…キ…キスしてるぅ
アナタの…オチンポがもう
十九のオウチにキス
しちゃってるのぉ♡

ははッ!!

奥のコリツとしたトコの凸…
子宮口かな?…気持良いのか?

うんソヨオ…
ソヨにソツ、ソツにソツ…ってオチンポの
先っぽが当たっちゃってるのオ♡

あぁっ…あっきいい♡
あああ…ダメっ…オチンポ…
凄く届いちゃってるウ…んんっ…

薫の何処をチンポで刺激されて
悶えちゃってるのかな？

んんっ♡

んんっ♡

んんっ♡

ぐんん

ずちゅ

ちゅぶっ



ええ〜ッ!!
そんなア:

あ〜ん

ちゃんとと言わないと
やめちゃうよ?

俺のチンポが薫のドコに届いてるのかな?
ちゃんと説明してくれないと分からないぜ?

ははは〜ん

奥の赤ちゃん作るトコロの...
子宮のオワチまで...届いちゃってるのあ〜

ずぶずぶッ

ちんぽ



子宮口のヨリヨリにオチンポの
先っぽが強くキスしちやつてるのあ……♡
ニ……みんなのされるの初めてエ……
子宮のヨリツツとしたトコ
奥にまで押されちゃつててエツツ
んんツツ!!

はなはな♡

ハツ

ハツ

ああツ

ブルン

ブルン

ビクビクツ

ビクビク

ガク

じゅぶツ

ズルウ

ガク

あれっ?……されるの初めてって?
もしかして元カレチンポじゃ子宮口には
届か無なかったのかな?

はぁ♡

恥かしい事言わないでエ...

んんッ

薫のコリコリ子宮口...
俺達はソコで繋がってるんだぜ
感じるだろ？

ジュポッ

グハッ

あへ♡

嬉しい♡

子宮口キス気持ちいいのぉ
でも...生は赤ちゃんが...出来ちゃうっ♡

グハッ

ブブッ



!?

何コレツ!?
一体どうなってるのツ!?

ちよつとした悪戯を思いついた俺は
催眠アプリの作動を一時的にキャンセルした

ピッ

エムッ

ブルッ

ブルルッ

キョソッ

マンコを串刺しにされたまま一瞬にして正気に
戻った薫は自分がどういう状態に置かれているかを
認識出来ずパニック状態に陥った



そんな事ある訳がないじゃないッ!!

何言ってるんですか新見一尉！
あなたが俺を誘惑してきたんじゃないじゃありませんかッ!!

キッ

ブル

ブル

ぐちゅ

薫は必死に自分を取り戻そうと俺に食って掛る様な眼差しを向けた

なら何故こんな事になってるんでしようかね？
見てくさいよ一尉のマンコが俺のチンポ
啜え込んで離さないじゃないですか

そ…そんな…事…
ある訳…ないじゃないイ…

ぬぶんッ

ズチムラ

ゴッ

ひぐッ!!

ジュン

ジュン

んひッ



はああくッそつそんなニと...
そんな事ありえないイッッ!

おおッ

おおッ

おおッ

おおッ

おおッ

パ
ン
ツ

パ
ン
ツ

パ
ン
ツ

ビ
ュ
ッ

ビ
ュ
ッ

薫...素直になろうよ
俺のチンポまで子宮口が下りてきて
身体の方は受精する気満々みたいだぜ?

はあぁぁ
しんぱんぱんぱんぱん♡

アハ♡♡

あ♡♡

あ♡♡

あ♡♡

あ♡♡

子宮口のギリギリにチンポキッスされてると…
気持ちすぎてえくもう分けわかんなく成っちゃうぅ

既に催眠アプリに脳を支配されている薫は
いとも簡単にアへ顔を晒してよがり狂う

ぶるん

ぶるん

パ
ン
ツ

パ
ン
ツ

ヒキム

びちゅん

びちゅん

パ
ン
ツ

パ
ン
ツ



薫…今の気持を正直に言ってみろよ…
俺にどうして欲しいんだ？

一杯…一杯突いて欲しいのオッ
あなたの硬いオチンポでええ
薫の…大事な子宮の入り口…
ヨリヨリ突いてええ

ぶるッ

ぶるるッ

ジュッ

ジュッ

ジュッ



そんなあゝおっ
赤ちゃんできるのは困るのオッ

薫にそこまで言われたら
しようがないな
鬼突きして孕ませてやるぜ

でもオッ...
まだ抜いちゃ嫌あゝ

はッ

はッ

はッ

んおッ

ビクッ

パンッ

ずぶずぶッ

ドチュン

パンッ

パンッ



アア!!
すごいのお漣くい♡

あか...

ブルン

はあく気持ちいい
奥まできつく締まってるなあ
すぐにいきそうだ

ゴウッ

ウチミ

パン

ズボッ

パン

うわうわうわ...

硬いッ!!
やだ...

あかあか♡

パン

薫は自分から腰をくねらせ
俺の腰の動きに合わせて喘ぎ乱れた

薫がアクメを感じて大きな喘ぎ声を出し始めた頃
俺も限界を感じ腰を打ちつけたまま薫の胎内に
精液を放った

はぁはぁ♡♡

イクイク♡

♡♡♡♡

はぁはぁはぁ...

子宮の中に特濃精液ザーメン
注ぎ込まれてイツちゃうらうら♡♡!!

ドクン♡

ドクン♡

キルン♡

薫!! 逝くぞ♡
俺の精液ザーメンで孕めよ♡



深々と挿入されていた肉棒を
引き抜くと、^{ザーメン}薫のヒクついて光る膣口から
タラタラと精液が湧き出すように逆流した



あ...ああ...

はあー

はあー

じゅんじゅん

ぶるッ

んんん

ヒク

ヒク



以来：
俺がやりたくなくなる度にアプリで
薫を呼び出し思うままに犯した

え……？



ヨコに登ればいいのか？

黙って俺の言う通りにすればいいんだよ

ギシッ





ビクッ

んっ
んん……

ブルルッ

ブルッ

何だよ…
ちよっとマンコに指突っ込んだだけで
スケベ汁でグチョグチョじゃないか
アンタ本当に淫乱だよな

グキョ

ぬちゅ



そんな事ないわ...
これはあなたが...

ほお

ほお

何?
俺のせいだっていうのか?

ぐちゃっ

ゴリッ

おはははははは

ムンムン

ヒタッ

ハアアアツ

まあいいや…
取りあえずこれでも
啜え込んでおけよツ!!

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ブルルッ

ブルルッ

俺は無造作にバイヴを
薫の肉壺に突っ込み
スイッチを最強にセットした

ビクッ

ビクッ

ズブズブッ

ガク

ガク

カチッ





パイヴ^レが抜け落ちないように
マシコを締め付けてるよ

そ...そんなあ...

ブルルッ

ブルルッ

ブルルッ

ビュッ

グイッ

ガク

ガク

はぁはぁはぁはぁ

はぁはぁ



喘ぐ薫の尻穴に俺は中指を突っ込んだ

!?

ブルッ

ブルッ

ブルッ

グニッ

グニッ

グニッ

ハアアアッ!!

そっそこは駄目エツ!!

何言ってるんだよ
アンタケツ穴の経験はないのか？

あッ

ははは...

ハア

ハア

ハア

あッ当り前じゃない
そんな...経験ある訳...

アアアア

ソケット

グリツ

グキョ

めちゅ



なら俺が薫のケツ穴処女を
貰ってやるから感謝しな

ゆ...許して...

はあ

はあ

あ

はあ

こんな刺激続けられたら...
おかしくなっちゃう

ブルッ

ブルッ

んちゅ

めちゅ

フキヤン

フキヤン

じっくりと
愉しんでくれよ

ぐいゅ

いちゅ





それじゃあ...
薫のケツ穴処女...
俺のチンポで貫かせて
もらおうぜ?

そんな... 嫌...
怖いわ...

ククク

はあ

はあ...

はあ

ゴーン

ブルッ

はあ





俺が肉棒を押し込み込むとアナルは見えなくなり肉棒を引くとむくつとアナルが盛り上がるそれを繰り返しながら俺の腰が薫の尻に密着し薫は肉棒の全てをアナルで迎え入れた





ズボッ

ズプッ

ズキーン

♡

♡

♡

♡

アナルを貫かれた痛みさえも
アプリの催淫効果で快感に
上書きされる



ズキョ

ズルッ

ズルッ

パンッ

パンッ

パンッ

パンッ

ああ……..
お尻のオチンボとオマンコのパイプの
振動がア……いい……♡

あッ
中でニすわめるGキ……..
ニたなG振るNH……♡

薫は涙を浮かべながら我慢していたが
少しずつ腰を動かすようになり
ついには喘きはじめた

ぐちゃん

ぐちゃん

もっと、もっと突いて……
めちやくちきにして……
好きにしてエ!!



アッ

アッ

パンパツ

うおおお凄いい締め付けた!!
ああ、薰…気持ちいいよ…
ああ…イク…イクそうだ!!…

ズボッ

パンパツ

オチユツ

パンパツ

あッ

あッ

あッ



パンパッ

ブルッ

ズチユツ

パンパッ

ズブツ

たははははは……

あッ

あッ

あたしも……あたしも……
また……あッ……♡

一緒にイッて……お願い……
ああ、もう……もう、イク……!!
飛んじやう……♡

ハッ

ブルッ

ドクン

フビエウッ

ビュルルッ

ゴゴッ

グァン

グァン

俺はあつという間に蒸の尻の中に
今まで我慢してきた多量の精液を注ぎ込んだ

ヤク

ヤク

ゴッ

ゴッ

ゴッゴッ

ブルッ

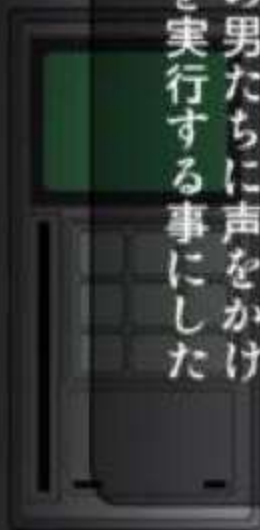
ブルッ





数日後…

新見一尉の暗示が深層心理にまで
及んでいるのを確認した上で
俺は何人かの男たちに声をかけ
次のフレイを実行する事にした





本当に一尉と
ヤレるって言うのか？

おいおいマジ
本気で新見一尉だぜ？



え?
はい...

え?
マジ
本気かよ...

まあ黙って見てるって
おい薫...服を脱げ...

訝しむ男達をよそに
俺は薫に命令する



おおー
あの新見一尉が目の前で
全裸になつてるなんて
信じられないぜ!!

これでいいでしょうか

これが一尉のオツパイか



へへへ
それじゃ遠慮無く...

おっぱい

モミ

モミ

男達は薫に前後から抱きつき
体を弄りはじめた



それじゃあ
俺は一尉の唇を...

FBI

FBI



薫は必死で抵抗するが
頭をおさえられ、歯はこじあけられ
舌を吸い出される。
豊満な乳房は揉みしだかれる

んんん!!

キム

新見一尉…べ口出して

あ……

うん

はあはあさん

子供のようにな、言われるまま突き出した蕪の舌を
男は唇で挟み、ちゅるん、と口内に吸い込む





ジュルッ

ピキッ

はあ...
そんな事言わないでえ...

すごいオツパイですよ一尉...
こんなにいやらしい身体じゃ
毎日ムラムラしてたまらなかつたん
じゃありませんか？

ピクッ

必死で抵抗する手がねじりあげられ
豊満な乳房は揉みしだかれ
割れ目をまさぐられていた。

ハアアア……
お願い……許してエ……

モミ

クチム

ムムム

おおー一尉のマンコ……
膣中まで丸見えで
スケベな牝臭がフンフン
匂ってるぜ

六本の腕が生き物のように、薫の体を撫で回され、体の中に灯った官能の炎が、激しく燃え上がるのを感じながら。薫は、混乱した頭の隅で後悔していた。

151515...

ブルッ

駄目エ...

ブルッ

めちよ

っパァ...

シートに座らされ大股開きにされた薫は、かつて味わった事のない複数の男からの愛撫に身をゆだねていた。



え？
そっそれは…

びっしょり

びっしょり

クッ

クッ

そんなにパイパイ騒がなくても直ぐに
もつとよくなるから安心しろよ

まずは一尉にはコレを
味わってもらおうよ？

クッ



ダツ駄目エ〜ッ!!

ホラホラア...一尉のマンコに
どんどん挿入っていつちやうよ〜?

ズブズブッ

ズブズブッ

ハアアアア

!!

ジクジクッ

ジクジクッ

ズブ

膣中を極太のパイプに捏ねくり回される
刺激に白い首筋をのけぞらせる薫

一尉なかなかいい
表情になって来てるじゃないか

複数の男に同時に嬲られる
男性経験の乏しい薫に取っては
まさに未体験の快感だった



あッ

あッ

あッ

あッ

あッ

ははは♡

グイーン

ブキョ

グイーン

グググ

それじゃ
いよいよ本番と行きますか…

たくましい…
ズル剥けで、カリが大きくて…
あんな立派なオチンポが、三本も…

だめえ…
それだけは許してえ…

ゴク

ホラホラ遠慮なんて
しなくてもいいんですよ？

何故…何故なの？
もう我慢できない…



シートに押さえつけられ大股開きにされた
薫の股間に深々と差し込まれたパイプからは
機械的な唸り音と共に粘液の音が響く

ゴーン

ゴーン

ゴーン

あぁ…ん…駄目エ…
お願いもう許して…
これ以上進んだら
本当に戻れなくなっちゃう…

△

△



何だよ意外と簡単に堕ちちゃうんだな？
こんな淫乱女が艦内ナンパワンの
才媛だなんてがっかりだぜ

そ…そんなこと言わないでえ…

ISIA

ISIA

ハア

ハア

男達の侮蔑の言葉を浴びて
薫は更に興奮した



淫乱な一尉はこんなパイリビヤ満足できないんじゃないすか？

そう言うのと股間でクネクネと蠢いていたパイブをズルリと引き抜いた



アッ!!

ズルウ

アアアアア
だッ駄目エツ!!

Is...Is...Is...

あららパイブ引き抜いただけで潮吹くなんてとんだだけ感じてるんだよ?





それじゃ俺のチンホを
一尉にご賞味いただこうかな？

あッテメエ！
抜け駆けを！！

ヒク
ヒク

ヒク

そ...それは...

ブル

ヌキヨ

ヒク

ヒク

薫の膣口に肉棒を擦り付けながらからかう様に質問をする

ホラホラ一尉はこれが欲しいんじゃないですか？
ちやんと言ってくれなきゃわかりませんよ？

お願い薫のいやらしいドロドロ牡マゴトア
ナタの極太カリ高チニホ挿入して頂だい...
私もう我慢できないの♡

一尉にここまで言わせるなんて...
お前とんだだけ仕込んだんだよ？



アッ

ニョキ

グイッ

ブル

アッ

アッ

アッ

アッ

それじゃ一尉の淫乱マンコ
ゴチになりまーす

ズブズブッ

ズブズブッ

ズブズブッ

ズブズブッ

ズブズブッ

ズブズブッ



うおッ!!
何だこのマンコ
本気で具合いいんだけど

ブチュ

ズブッ

あああ〜…
すっばい〜♡

ほろ



おおー一尉のマンコ凄くイイよ
とても淫乱女の使い古しの
中古マンコとは思えないくらいだ

オキコッ

ズボッ

ビクッ

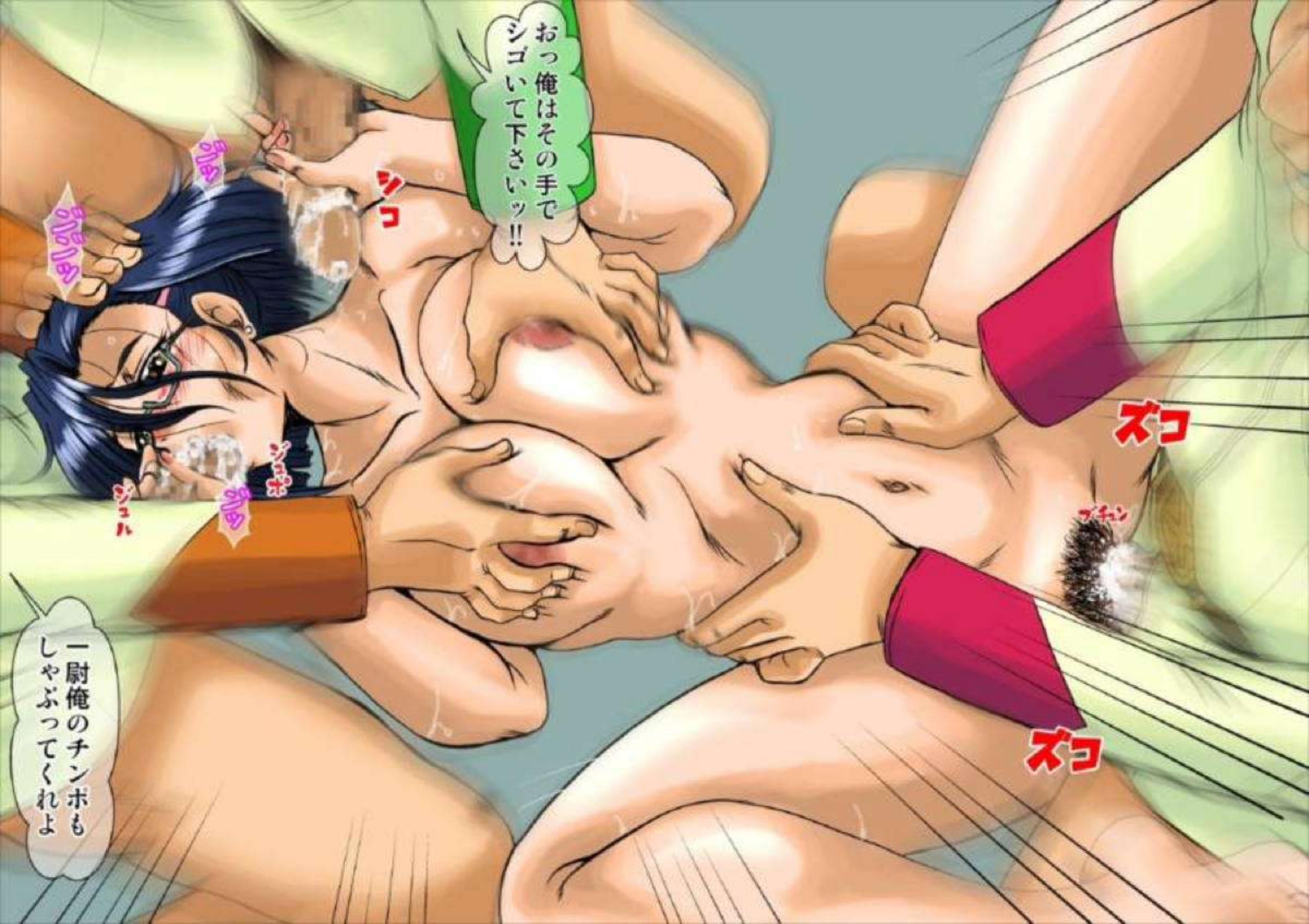
ビクッ

ISCA♡

ISCA

ISCA♡





おっ俺はその手で
シゴいて下さいッ!!

シコ

ズコ

ズコ

マキ

シコ

シコ

マキ

マキ

一尉俺のチンポも
しゃぶってくださいよ

あはっ♡

駄目エ
イクイクウツ!!

シッ

あはっ♡

おっ俺もツ!!

あはっ♡

あはっ♡

シッ

あはっ♡

あはっ♡

あぁッ来て来てエツ!!
一杯出してエツ♡

すげえッこの腰使い堪らない!
もう…もう射精るツ!!

ズボッ

ズボッ

ズボッ

ブチゅ



♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

イツクウウウウウウウウウウ!!

ビュッ

ブビュッ

ビュルルルッ

ドクドク

ペニョペニョ

ドクドク

胎内に直接射精され
絶頂を迎えた薫の全身に
精液が降り注ぐ

見ろよ一尉の表情カオ
痙攣しながら全身精液ゼンジンまみれに
なつてウツトリしてるぜ

はあー

はあー

はあ...
はあ...

精液バックが余程
お気に召したらしいな



お掃除フェラまでやってくれるなんて
よく仕込んであるな

んネツ

ちゅわん

ジコルル

アアア

へへへそうだろ？
ここまで仕込むのに苦労したんだぜ

おおおう！
新見一尉の口、あつたかい…

一尉のフェラテクは凄いな
余程の淫乱じやなきやこの舌遣いは
仕込めないぜ？

んんっ

んっ

ブチエツ

ジュルルッ

そんなに夢中になって
しゃぶってくれるなんて
そんなに俺のチンポが美味しいのか？

んんん

ズズズズ

チュルル

んんん♡
ムムム



こいつ本気で
チンポ大好きのヤリマンビッチだからさ
俺の言う事なら何でも悦んで従うんだよ

おっぱい♡

おっぱい♡

おっぱい♡

おっぱい♡

5014

あーあ見ろよ一尉のマンコ
チンポ抜けた後ももう伸び切って
穴ぼこが空きっ放しじゃないか

だからこいつの
後は嫌だったんだよ

きつともうガバガバのユルマンで
挿入しても大して気持ちよく
ないんだぜ？

ならケツマンコに挿入れば
いんじゃない？

!?

ゴキッ

ダラマ...



確かに新見一尉ももう準備万端で
タツフリ濡れてるからこれなら
ケツマンコにもすぐ挿入られる…

なッ!!

ズブズブ

男は薰の腰を引き寄せると
先端をアナルにあてがい
躊躇せずにズンと突き上げた

あうっ!!

エググ

おは…そんな事
ある訳…ない…わ

おはっ



ズゾゾゾッ

ヌポオ

ジュルル

ムソムソ

くねらせて逃げようとした尻を掴み
構わず肉棒を深く突き入れると
薫の身体が硬直し
苦痛に顔を歪めるが
男は構わず腰を振りはじめた

凄えなあ俺のチンポが
根元まで入るケツマンコ
なんて初めてだぜ

だんごッ！
だんごマン！

ムソムソ





おッ!!
どうかと思うったが
一尉のケツマンコの締りは
なかなかのもんじゃないか

尻穴に肉棒を振し込まれ
圧迫された膣口からは射精された
精液が逆流し滴り落ちる

ブチコッ

ズブッ

ギチ

ギチ

ギチ

チチチ

132

あーッ

おなかか…

お腹がが裂けちやうッ!!

へッ

へッ

ガッ

体勢が変わり更に奥まで肉棒を
迎え入れる事になった薫は
息も絶え絶えに訴えるが男は構わず
突き上げ続けた

ガッ

ブルン

ブルン

ガッ

何言ってるんだよ
これくらい余裕なんだから?

チンポッ

ドッ

ブチユ

ズブツ

ヤツパリ
ケツ穴にだけツ混んでるんじゃないか？
一尉物足りないんじゃないのか？

はあー

ブル

あ...

はあー

It's Sooo...

ブル

見ろよ一尉のマンコ
モノ欲しそうにヒクついて
精液ダラダラと垂れ流してるぜ？

んん

んん

ドクドク...

んん



ケツ穴にチンポ突っ込んでるから
マンコの締めもそれなりに
あるんじゃないか？

ハアアア...

駄目エ...許して下さい

はあ

はあ

あ...

二のままじゃ私...
本当におかしくなっちゃう...

あ...

作り物なんかじゃなく
本物のチンポを挿入してやるから
せいせいおかしくなってくれよ

ミキッ

ミキッ



オイオイ
誰だよガバガバのユルマンだ
なんて言ったのはッ!?

すげえぜこのマンコ!
すぐに絞り取られそうだ!!

ひびく

ぐらぐら

ズブズブ

ズキ

キーン





ほら一尉ッ
もういくぞッ!!

パンッ

パンッ

パンッ

あーっ
あーっ

んんん

パンッ

んんん

んんん
んんん

んんん
んんん

んんん
んんん
一杯出してエッ

んんん

んんん

んんん

来てッ来てッ



下の男もズンズンと突き上げ
薫の中に放出した

後の男がうめいて
アナルの中に放出すると
薫は背中をのけ反らせて、叫んだ

うおッ
しッ締まる!!

ヒューッ!!



うっ!!

ドクッ

ドクッ

ドクッ

ドクッ



あれ？一尉…
気を失ったのか？

ブル

アッ

アッ

ブル



男の肉棒が薫の肛門から抜け出すと
薫のアナルは穴が開いた様に開きっぱなしで
そこから白い精液がダラダラと流れ出した

ふうーッ
一尉のケツ穴…
良く締まって最高だぜ

ブル

ブル

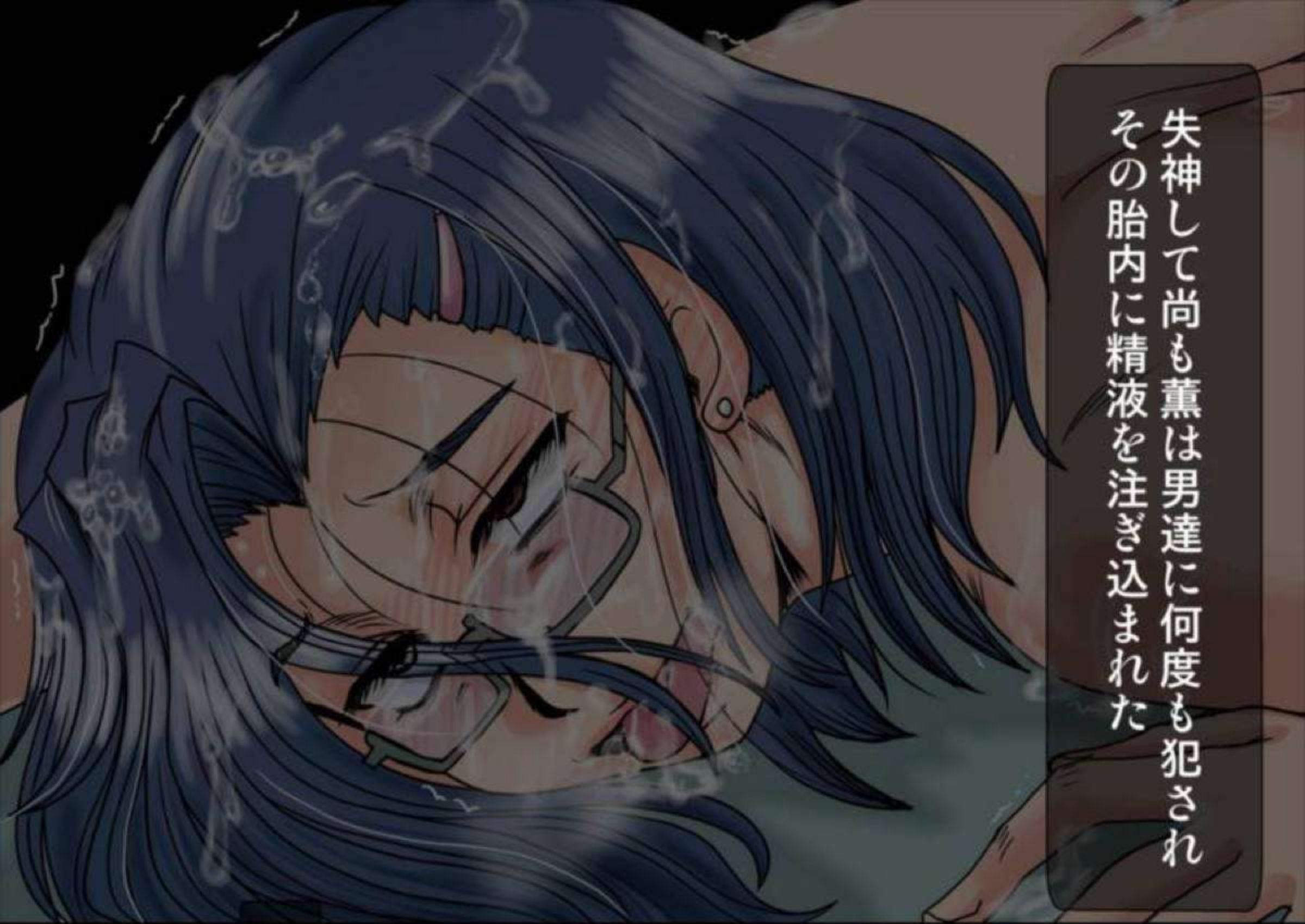
ビク

ビク

アッ


ビク

ビク



失神して尚も薫は男達に何度も犯され
その胎内に精液を注ぎ込まれた

後日：



新見一尉が誰の子種かも分からない
子供を妊娠したと艦内が大騒ぎになるが
それはまた別の話という事で：

この催眠アプリの効果は十分証明された：
だがそうなるともっと別の女性乗組員でも
試したくなるのが男つてもものだ
そこで次のターゲットは：

森一尉…
ちよつといいですか？

何？
どうかしたの？

実は新見一尉の様子がおかしいみたいなんですが
ちよつと相談に乗って貰っていいですか？





???
いいわよ...



END